

## 平成22年度 研究主題について

### 1 学校教育目標

わたしがすき あなたがすき みんなかがやく 旭竜っ子 の育成

### 2 研究主題

よりよい自分や集団をめざして進んで思いを伝え合う子どもの育成  
～進んで思いや考えを伝え合う書写学習～

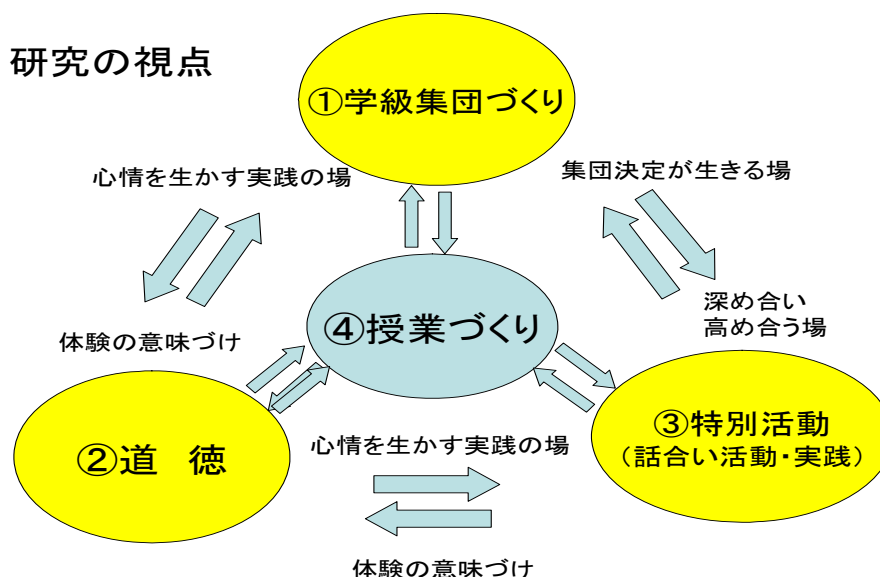
「よりよい自分や集団をめざして」とは、児童自らが問題への解決に向けて意欲をもち、協力して主体的に活動しようとする子どもの姿ととらえる。

「進んで思いを伝え合う」とは、進んで友達とかかわりを持ち、相手の思いを考えながら聞いたり、自分の思いを進んで話したりして、お互いを理解し支え合おうとする姿ととらえている。

### 3 研究の視点

- ① 一人ひとりが主役になることができる学級集団づくりの工夫
- ② 道徳の時間に培った心情を特別活動の場で生かしていく工夫
- ③ 主体的に思いや考えを出し合い、深め合う特別活動（話し合い活動・実践化）の支援
- ④ 進んで思いを伝え合う授業づくりの工夫

①～③の3点が、図のように相互補完しあうことで研究主題に迫る土台をより確かなものにできると考えている。このようにして育つ豊かな心や実践力を、日々授業の中でも生かし育てていくために、本年度も視点④に重点をおいて実践を進めている。



## 4 めざす子ども像

低学年…自分の思いをもち、友達や先生とともによりよい自分や学級をつくろうとする子ども  
中学年…学級の課題に気づき、友達とのかかわりの中でよりよい自分や学級をつくろうと実践する子ども

高学年…学校生活の向上に目を向け、自他の違いを認めながらよりよい自分や集団をつくろうとする子ども

## 5 研究の内容

本校の子どもたちは全体的に明るく素直である。昨年度までの成果として、受容的な学級集団の中で、自分の思いを話したり友達の考えを大切に聞こうとしたりする姿が見られるようになった。また、協力して自分たちの生活をよりよくしようとする態度も育ってきた。さらに、子どもたち同士がかかわり合う姿が各教科領域の授業の中でも見られるようになってきている。

そこで本年度は、より主体的に友達とかかわりをもち、思いを伝え合うことができるようにするために、関心意欲を喚起する課題の設定や活動の工夫をしたいと考えた。日々の授業において子どもが自己のよさや伸びを実感するとともに、互いのよさを認め合い協力できる集団として高まることを期待している。

さて、本年度本校は、岡山市習字教育研究会より指定を受け、書写についての授業研究を進めることとなった。

新学習指導要領改訂の基本方針では「書写の指導については、実生活や学習場面に役立つよう、内容や指導のあり方の改善を図る」ことが示されている。さらに、情報機器の普及などによる文字の使用状況や環境の変化に伴う対応として、「文字を書くことの目的・場面・相手の意識化」や「文字を書く動作・過程を学習として重視すること」も指摘されている。つまり、書写の授業が果たす役割は従来以上に大きくなってきている。言い換えれば、手本に従った字形・字体練習の繰り返しや作品づくりに重点を置いて指導するのではなく、一人ひとりの児童が自分のめあてをもち、どこに気をつければ字が整うのか考えながら練習することによって、日常生活の中で正しく文字を書くことができる力を獲得し、あらゆる場面でその力を生かすことが強く求められている。

本校では、これからの書写の指導のあり方を探るとともに、研究の視点④「進んで思いを伝え合う授業づくりの工夫」に重点を置き、書写の授業の中でも進んで友達とかかわりをもち、相手の思いを考えて聞いたり、自分の思いを話したりして、お互いを認め合えるような工夫ができるのではないかと考え、次のようにサブテーマを設定して研究テーマに迫ることとした。

進んで思いや考えを伝え合う書写学習

書写の授業における工夫として、次の2点を考えた。

- (1) 学習過程の工夫
- (2) 教材・教具の工夫

## (1)学習過程の工夫

新学習指導要領総則の第4の2には「各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」とある。

本校では、児童がより主体的に学習できるよう、全ての教科・領域の指導に課題解決的な学習過程を取り入れることにより、効果をあげている。

書写でも同様に一時間の学習の流れをパターン化して取り組むことにより、より主体的な学習になると考える。

【めあてをもつ】…試し書きと手本とを比較して話し合うことで、本時のめあてや自分の字についての課題、また文字を書く上での基準について明らかにする。

【自分タイム】……自分のめあてに合った練習方法で練習し、自己評価をする。

【みんなタイム】…まとめ書きと試書とを比較し、相互評価をする。

【まとめをする】…学習したことを振り返り、次時への学習意欲をもつ。

特に【めあてをもつ】段階と【みんなタイム】では、進んで思いや考えを伝え合う場として重視する。

## (2)教材・教具の工夫

児童が主体的に課題に取り組み、思いや考えを伝え合いやすくするために次のような工夫をした。

### 主体的に課題に取り組むための工夫

#### ①姿勢図と合い言葉「グー」「ピタ」「ピン」の掲示

- ・各教室に掲示することにより、書くときの正しい姿勢を常に意識づけるようにする。また継続して指導できるようにする。



#### ②デジタル教材・機器の活用

- ・大型テレビ、実物投影機、DVD、パソコン、デジタルビデオカメラ（SDカード）等を利用し、範書の動画を見せるなどして、文字を書く上での基準をより分かりやすくする。

### ③交点番号入り用紙

- ・マス目の交点に番号を打ったものを用意し、主として第1時に下敷きや練習用紙として使用することにより、字形を整えて書くことができるようにする。

### ④準備図の掲示

- ・毛筆書写の道具を机上に配置した準備図（写真）を掲示し、準備が手際よくできるようにする。

### ⑤筆洗い・筆掛けの設置

- ・各自がペットボトルを利用して手軽に筆を洗うことができるようにする。また廃棄した児童用机の天板と脚を外して筆掛けとして再利用することにより、手際よく片付けができるようにする。



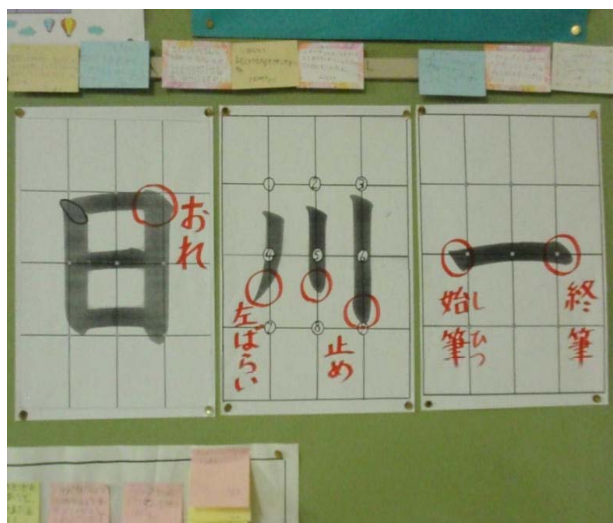
## 思いや考えを伝え合いやすくするための工夫

### ⑥点画の種類や名称の掲示

- ・点画の種類や名称を正しく使えるようにするとともに、既習の点画と未習の点画とを明確にすることによって、めあてを焦点化し、考えを説明しやすくする。

### ⑦見比べシートの活用

- ・試書とまとめ書きを台紙に並べて貼ることにより、伸びがよく分かるようにする。



このほかに③交点番号入り用紙を使用することによって、自分の思いや考えを番号で具体的に示すことができ、わかりやすくなる。また、④準備図の掲示や⑤筆洗い・筆掛けの設置により、準備や片付けを能率よく行うことができ、思いや考えを交流する時間を確保することができる。

### 旭竜小の研究方針

☆よりよい旭竜小学校をつくっていくために前向きに参加する。

- ・日々の子どもの姿が変わっていくことを私たちの喜びにする。

☆子どもの姿を中心に進める。

- ・「立派な授業」ではなく「こんな指導でこんな子どもを！」という立ち位置で提案する。
- ・子どもの実態に根ざした研究を進めていく。

☆同僚性を構築する。

- ・互いの実践を尊重する。
- ・批判家や評論家にならず、互いに学ぶべきところを見つける。
- ・困っていることをともに考える，成果を実践し合う。

☆「なす事によって学ぶ」「まずやってみよう」という姿勢を重視する。

## 1 題 材 「日」

## 2 目 標

折れの筆使いを理解し、「日」の字形を整えて、ていねいに書くことができる。

## 3 指導計画（全2時間）

第1時 折れの筆使いを理解し、ていねいに書く。（本時）

第2時 「日」の字形を整えて、ていねいに書く。

## 4 指導上の立場

題材について

本題材は、これまで学習した「一」の横画、「川」の縦画を生かし、“折れ”“字形”について理解することができる教材である。“折れ”の筆使いは、横画の終筆と縦画の始筆が重なったものと考えて書けば、自然な筆使いができることや穂先の通り道についての視点を投げかけることで理解させたい。“字形”の整え方は、画の長さや方向、太さ、間隔などの観点から押さえることができるようにさせたい。そのため、手本や練習用紙の縦線と横線の交点に番号を入れ、位置を確認させることで気づきやすくさせたい。

## 5 本時の視点

縦線、横線の交点に番号の入った手本・練習用紙の活用により

- ・始筆の位置に注意し、字の大きさ、バランスに気をつけて書くことができる。
- ・清書の場合にも、下敷きの線を練習用紙のときと同じように利用して書くことができる。
- ・めあて（難しいところ）をしぼることができる。

## 6 本時案（第1時）

| 目 標               | 折れの筆使いを理解し、ていねいに書くことができる。                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                              |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習活動              | 教 師 の 支 援                                                                                                                                                                                                                                                  | 準備物                                                                                                                                          |
| 1 試書し、本時のめあてをつかむ。 | <p>○用具の置き方、姿勢、筆の持ち方を意識できるように掲示物や提示装置を使って確認できるようにする。</p> <p>○縦線、横線の交点に番号の入った手本・練習用紙を配り、始筆や終筆をする位置（番号）を確認しながら1画ずつ一緒に試書した後、難しかったところや気づいたところを発表させ、本時のめあてをつかませる。</p> <p>&lt;気づかせたいところ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2画目の折れ（本時のめあて）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢の掲示物</li> <li>・教材提示装置</li> <li>・手本、練習用紙</li> <li>・練習用紙を拡大したもの</li> <li>・試書とまとめ書きを貼る色画用紙</li> </ul> |



- ・縦線と横線の太さの違い
- ・3画目と4画目の間隔
- ・1画目と2画目の縦画は下に出ること

折れのふでづかいに気をつけて、ていねいに書こう

- 2 めあてに気をつけて練習する。  
【自分タイム】

○めあてに沿って1枚練習させ、よく書けている児童の作品をもとに折れを書くときの視点を知らせることで、筆使いに気をつけて書くことができるようにする。

<視点>

①折れは、横画の終筆と縦画の始筆を組み合わせたものであること。

②穂先には通リ道があること

○穂先の通リ道を意識できる練習用紙を配布し、①と②を意識して練習できるようにする。

○机間指導により、よく書けているところや直した方がよいところを指示したり、一緒に筆を持って書いたりすることで、自信をもって書くことができるようにする。

- 3 自分や友達の作品を見て、話し合う。  
【みんなタイム】

○まとめ書きをさせ、数人の作品を取り上げて試書と比較することで友達の伸びについて話し合わせ、努力できたことを実感できるようにする。

- 4 まとめをする。

○めあてに沿って振り返りをさせ、がんばったことを確かめ、次時の意欲につなげるようにする。

○次時は、字形を整えて書くことを知らせる。

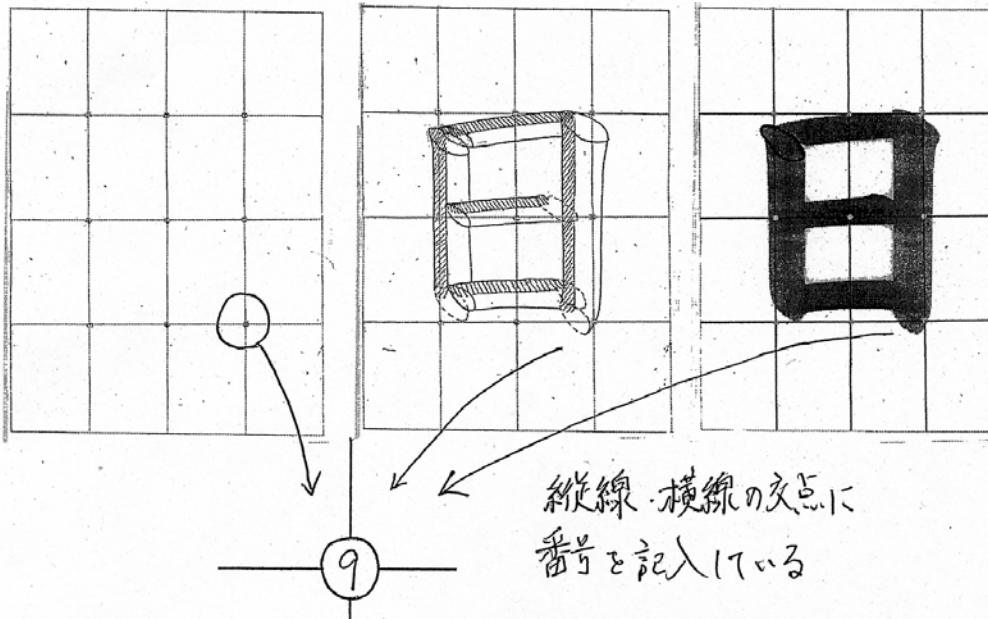
・練習用紙

・横画と縦画の部品

・教材提示装置

・穂先の通リ道を書いた練習用紙

## 7 練習用紙・手本



## 1 題材 「人」

## 2 単元の目標

- ・払いの筆使いを理解し、字形を整えてていねいに「人」を書くことができる。

## 3 指導計画(全2時間)

第1時 右払いの筆使いを理解し、ていねいに書く。(本時)

第2時 「人」の字形を整えて、ていねいに書く。

## 4 指導上の立場

## (1) 題材について

本題材は、払いを扱う題材である。「人」は1年生で習い、どの児童も書くことができる。しかも「人」は字画が簡単であり、右払いと左払いの違いを意識して筆使い(始筆・送筆・終筆)の練習をすることができる題材である。

左払いは「川」の第1画で既習しているため、児童はあまり難しさを感じることなく書くことができると予想される。しかし、本題材で初めて右払いを取り扱うため、左払いとの違いに戸惑う児童も多いと考えられる。そこで、本題材では、右払いに重点を置き、左払いとの筆の運びの違いに気付かせ、払いの時の角度や穂先、太さを意識しながらていねいに書くことができるようにしていきたいと考える。

## (2) 児童の実態について

本学級の児童(男子18名、女子14名)は、どの児童も3年生になり初めて毛筆に取り組んでいる。新たな字を書く道具に出会い、今まで鉛筆やペンで字を書くことに抵抗があった児童も興味をもつことができている。また、毛筆は字形や字のつくりを意識するのに適していて、字を書くことが得意不得意に関わらず、どの児童も同じ土台に立つことができる。

しかし、すぐに書き始めることができる鉛筆などとは違い、道具の用意や書く姿勢などに違和感をもっている児童も少なくない。字を書くときも硬筆では字形を整えて書くことができても毛筆ではうまく書くことができない児童もいる。そこで、準備がしやすいように準備図や姿勢図を掲示して意識づけてきた。さらに、毛筆で字形や運びを理解し、硬筆に広げていくことで、日々の生活の中でも姿勢や用具の持ち方、字の書き方を意識できるようにしていきたい。

## (3) 研究テーマとのかかわり

本時では、研究テーマとのかかわりを受けて、次の支援の工夫を考えた。

## ○自分タイムでの工夫

自分に合った練習方法を選択できるようにすることで、個々の児童が右払いに対して課題をもち、意欲的に練習できるようにした。また、本時では、右払い(2画目)に重点を置いて練習できるように、左払い(1画目)を籠書きにした用紙を用意する。

## ○みんなタイムでの工夫

自己評価、相互評価において伸びを実感できるように試書とまとめ書きを見比べることができるシートを用意した。また、ペアを組むことで互いによさを認め合える場を設定し、伸びがわかる場所にシールをはっていくことで、集団作りの基盤となる良好な人間関係を築くことができるようにしていく。また、肯定的な評価をもらうことで自分のよさを再認識し、自己肯定感の育成にもつなげていきたいと考える。



## 5 本時案（第1時）

|                                                              |                                                                            |                                                                                                                                                                                   |                                   |
|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 目標                                                           | 右払いの筆使いを理解し、ていねいに書くことができる。<br>試書とまとめ書きを比べ、互いの伸びを認め合うことができる。                |                                                                                                                                                                                   |                                   |
| 学習活動                                                         |                                                                            | 教師の支援                                                                                                                                                                             | 準備物                               |
| 1 めあてをもつ。<br>・試し書きをする。<br><br>・「人」を書く上で難しかったところや気づいたことを発表する。 |                                                                            | ○姿勢、筆の持ち方、用具の置き方を確認し、意識できるように促す。<br>○本時の題材「人」を提示し、筆順を確認した後、試し書きをするように伝える。<br>○試し書きと手本を比べ、めあてをつかむことができるようにする。<br>〈予想される発表〉<br>・第1画左払いの筆使い<br>・第2画右払いの筆使い<br>・「人」の外形、第1画、2画の始筆の位置   | 掲示用手本<br>拡大手本<br><br>見比べシート<br>手本 |
| 右はらいに気をつけて、ていねいに書こう。                                         |                                                                            |                                                                                                                                                                                   |                                   |
| ・基準をつかむ                                                      |                                                                            | ○太さや形に注目し、右払いの基準をつかむことができるようにする。<br><div>右下に徐々に筆圧を加える。一度止めてから、右へ押し出すような気持ちで払う。</div><br>○デジタルテレビに動画を流すことで、筆使いや穂先、筆圧を意識して書くことができるようにする。                                            | DVD                               |
| 2 めあてに気をつけて練習をする。<br>【自分タイム】<br>・練習をする。<br>・まとめ書きをする。        |                                                                            | ○自分のめあてに合った練習用紙を選択し、練習を進めていくことを伝える。<br>○机間指導では、一人ひとりの伸びを見つけ、頑張りを認めるようにしていく。<br>○空書を書き、本時のめあてを確認した後、1枚だけまとめ書きをするように伝える。<br>○まとめ書きを試し書きの横に貼ることで、めあてに沿った自分の伸びを確かめることができるようにする。(自己評価) | 練習用紙<br>(籠文字、骨文字<br>穂先練習、部分練習)    |
| 3 自分や友達の商品を見て話し合う。<br>【みんなタイム】                               |                                                                            | ○隣の児童とまとめ書きを見合い、よいところにシールを貼っていくこと(相互評価)で、互いの伸びや頑張りを認め合えるようにする。<br>○相互評価の後、友達の良いところを全体の前で発表することにより、課題解決に向けて取り組めた実感をもたせるようにする。                                                      | 見比べシート<br>シール                     |
| 4 まとめをする                                                     |                                                                            | ○次時は、字形を整えて「人」を書くことを知らせる。                                                                                                                                                         |                                   |
| 評価                                                           | ○右払いの筆使いの中で、一度止めてから右に払おうとすることができている。<br>○試書とまとめ書きを比較し、めあてに沿って認め合うことができている。 |                                                                                                                                                                                   |                                   |

## 6 研究協議

### 【めあてタイムについて】

- ・ 練習時間、振り返りの時間をしっかり確保するために、めあてタイムの時間を15分でできるようにしていきたい。
- ・ 次時の字形に意識をもたせるための△の透明シートは効果的であった。
- ・ 基準をつかむ時には言葉だけの指示ではなく、具体的に提示するほうがわかりやすい。
- ・ DVDを見るときに、二回目は見る視点を与えると効果的である。
- ・ 課題を見つけるときに、「難しかったところ」「気づいたところ」と聞いていたが、「お手本と比べて違うところ」と聞くほうが有効であるのではないか。

### 【自分タイムについて】

- ・ 空書を練習の前にもすることもよいのではないか。
- ・ 左払いは籠字であらかじめ書いているシートを用意していたが、右払いに意識をもたせる点で有効であった。
- ・ 机間指導では子どもの態度面をほめることも大切である。
- ・ 自分タイムは10分程度だったがそれぐらいの時間でよかった。長すぎるとだんだんあきてくる児童も出てくると予想される。
- ・ 練習シートを取りに行く時の動きが多い点が気になった。

### 【みんなタイムについて】

- ・ 見比べシートを机に広げて一斉に見る時間があってもよい。その中で、今日の一番など教師から出してもいいのではないか。
- ・ 3年生ではみんなタイムで相手のよかったところにシールを貼る程度でよい。渡すときに一言あるとさらによい。
- ・ 多くの児童が発表できていたのでよかった。もう少し時間を確保して多くの児童に発表の機会を与えていきたい。

### 【その他】

- ・ 板書は右から左に時間を追っていたが、始めの参考手本と基準をつかむ際に離れているので見にくいのではないか。
- ・ 板書の参考手本に基準を直接書きこんでいくと見やすい。
- ・ 机間指導の際の児童への声かけがほめる声かけでよかった。児童の書こうとする意欲が高まってくる。
- ・ 一時間で右払いがどれだけ上手になるか疑問があったが、ここまで変わるんだという驚きがあった。見比べシートで差がわかり、とても有効であったと感じた。
- ・ 見比べシートに貼る試書はお手本を見ずに書くことが望ましい。まとめ書きとの差が出ることで、児童は伸びを感じ、達成感を得ることができる。

- ・ 点画ピースなどを使ってどのように書けばよいのかを考えさせることも大切である。
- ・ 始筆時計を活用し、始筆の向きを常に意識できるようにしていきたい。
- ・ DVDは範書だけで書く、基準をつかむためのナレーションが入っているのでわかりやすかった。

## 7 考察

めあてタイムでは「人」での課題をつかませ、さらに本時で扱う右払いに意識をもたせたかった。右払いについては児童の中から課題意識をもつことができたが、次時で扱う字形には子どもは意識が向かなかった。児童からではなく、教師から提示していくことも必要に感じた。

自分タイムまでの時間を多くとってしまったため、内容を精選していくことが大切であった。その中で自作の動画はナレーションが吹き込まれているので、基準をつかませる上ではとても有効だったと実感した。

自分タイムでは練習時間が短かったと感じていたが、あまり長い時間でも児童の意欲が続かないので、10分程度でよかった。机間指導では児童を称揚する言葉かけをするように心がけたが、児童は上達した字を見て喜びを感じていた。

みんなタイムでは、見比べシートがあることで自分の字の伸びを視覚的に捉えることができた。また友達にシールを貼ってもらうことで、児童は自分の気づかない伸びも実感することができていた。渡すときに無言で渡す児童が多かったので、互いに一言ずつ言って渡せるように指導していきたい。



## 1 題材 「林」

## 2 目標

- 文字の左右の組み立て方を理解し、「林」の字形を整えて、ていねいに書くことができる。
- 毛筆で組み立て方を考えた漢字を練習することにより、硬筆でも字形を整えて書こうとする態度を育てる。
- めあてに沿って練習し、自分の伸びを確かめたり友達の良さを認めたりすることができる。

## 3 指導計画（全3時間）

- 第1時 「林」のへん・つくりの形を知り、ていねいに書く。（本時）
- 第2時 組み立て方に気をつけて、ていねいに書く。
- 第3時 漢字の組み立て方に気をつけて、硬筆でもていねいに書く。

## 4 指導上の立場

## (1) 題材について

本題材は、3年生で学習した横画（一）と縦画（丨），払いの筆使いを生かし、左右の部分の組み合わせについて理解することができる教材である。「木」は「へん」や「つくり」になると字形が変わるので、相互が譲り合いう形にして、組み合わせると字形がよく整うことを理解させたい。そのために、「へん」「つくり」それぞれの字形をよく観察し、横画と縦画の交わり方や止め・払いについての自分の課題を見つけ、主体的に活動できるように練習を工夫したい。

また、毛筆での学習を生かして、漢字の左右、上下の部分の位置や大きさの違いを考えて硬筆を練習し、日常生活にもいかしていきたい。

## (2) 児童の実態について

本学級の児童（男子19名、女子8名）は、文字を上手に書きたいと考えている児童が多く、意欲的に取り組むことができる。しかし、文字を書くことに抵抗を感じている児童や、一字一字を丁寧に書くことができず乱雑な文字を書くことに慣れている児童もいる。

そこで、自分自身の伸びを感じ取り自信をもって書く活動ができるように、試書と練習後の文字を比べることで、お手本との比較だけではなく、自分の努力やよさに気づくようにしてきた。書写への抵抗をなくすことにつながってきていると考える。

また、他教科でも書く活動時には、姿勢に注意して書くことや丁寧に書く時間を確保するようにしてきている。

さらに、視写を意図的に取り入れ、学校だけでなく家庭学習の一つとしても保護者に協力を依頼し、継続してきている。

## (3) 研究テーマとのかかわり

研究テーマ「よりよい自分や集団をめざして進んで思いを伝え合う子どもの育成」に迫るために、各教科で実施している課題解決学習「めあて」「自分」「みんな」「まとめ」タイムのパターンを生かし、次のような手だてを考えた。

## 【めあてタイム】

試書とお手本を比較して話し合うことで、自分の字についての課題を見つけることができるようにする。このとき、「へん」と「つくり」それぞれについて縦画と横画の交わる位置など、「木」と比べることで、左右の部分の組み立てについて理解できるようにする。

## 【自分タイム】

自分のめあてに合った練習方法（練習用紙＜かご字・ほね字・部分練習・外形＞）を選び、練習できるように支援する。

机間指導により各自のめあてに合った練習ができているか確認する。

## 【みんなタイム】

試書とまとめ書きの二枚を比較できるように色画用紙に貼り付け、良くなったところを確認し、友達とよいところを認め合えるようにする。

## 【まとめタイム】

友達の意見も参考にして、よくなったところ、次回努力したいことを自分のめあてに沿って振り返ることができるようにする。

## 5 本時案(第1時)

| 目標                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>文字の左右の組み立てを理解し、「へん」と「つくり」の形に気をつけて、ていねいに書くことができる。</li> <li>自分や友達の伸びを見つけて伝え合い、字を書く楽しさを味わう。</li> </ul>                                                                                                                                                                            |                                                                       |                                                                                                                          |
|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学習活動                                        | 教師の支援                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 評価                                                                    | 準備物                                                                                                                      |
| <p>1 試書する。</p> <p>2 めあてをつかむ。</p>            | <p>○普段書いている児童の文字を見せ<br/>本時は「林」を書くことを伝え、<br/>試書させる。</p> <p>○姿勢や筆の持ち方を意識できるように、<br/>掲示物を使って確認できるようにする。</p> <p>○試書とお手本を比べて気づいたこと<br/>を話し合わせ、自分の課題をつ<br/>かむことができるようにする。</p> <p>○「へん」と「つくり」に分けて考<br/>えさせ「木」の字形が変わること<br/>に気づかせる。<br/>【へん】<br/>横画は短くやや右上がり<br/>縦画は横画の右寄りで交わる<br/>【つくり】<br/>横画を短く書く左払いを短く、<br/>方向に気をつける。</p> |                                                                       | <p>教材提示<br/>装置<br/>児童が書<br/>いた文字</p> <p>姿勢の掲<br/>示物</p> <p>「林」を<br/>拡大した<br/>もの</p> <p>「へん」<br/>「つくり」<br/>に分けた<br/>図</p> |
| <p>「へん」と「つくり」の形に気をつけて、ていねいに書こう。</p>         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                       |                                                                                                                          |
| <p>3 めあてに気をつ<br/>けて練習する。<br/>【自分タイム】</p>    | <p>○自分の課題をお手本に記入させ、<br/>気をつけることを意識して練習で<br/>きるようにする。</p> <p>○かご字、骨字、部分練習用紙を用<br/>意し、自分の課題に合った練習が<br/>できるようにする。</p> <p>○机間指導により練習方法を確認し<br/>たり、良い点や改善点を伝えたり<br/>して、自信をもって練習できるよ<br/>うにする。</p>                                                                                                                          | <p>自分のめあてに<br/>沿った練習がで<br/>きている。</p>                                  | <p>練習用紙</p>                                                                                                              |
| <p>4 自分や友達の作<br/>品を見て話し合う。<br/>【みんなタイム】</p> | <p>○試書とまとめ書きした字を比較<br/>し、友達とお互いの伸びについて、<br/>話し合わせ、努力できたことを実<br/>感できるようにする。</p>                                                                                                                                                                                                                                        | <p>自分や友達の試<br/>書とまとめ書き<br/>を比較し、伸び<br/>を確かめた話し<br/>合いができてい<br/>る。</p> | <p>試書とま<br/>とめ書き<br/>を貼る色<br/>画用紙</p>                                                                                    |
| <p>5 まとめをする。</p>                            | <p>○めあてに沿って振り返りをさせ、<br/>がんばったことを確かめ、次時の<br/>意欲につなげるようにする。</p> <p>○次時は字形を整えて書くことを知<br/>らせる。</p>                                                                                                                                                                                                                        |                                                                       |                                                                                                                          |

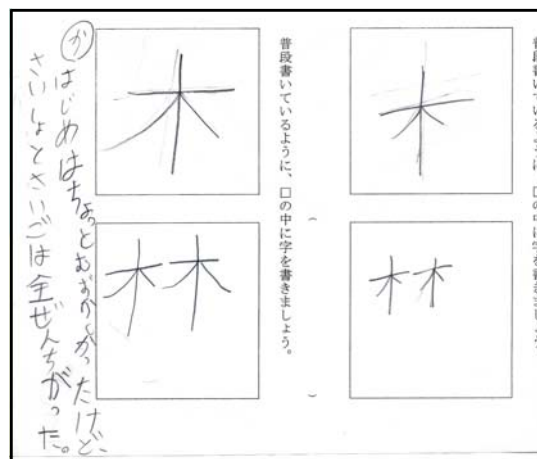
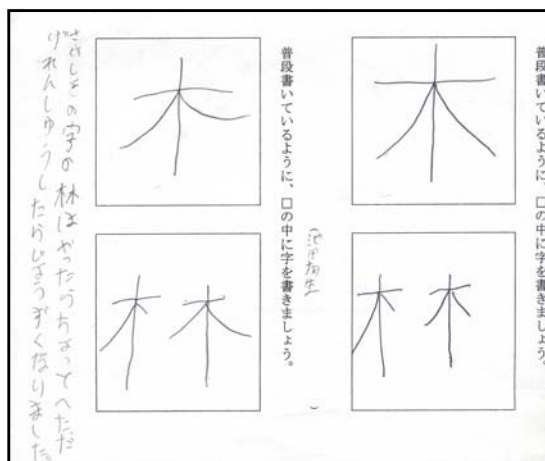
## 6 研究協議

### (1)授業の様子と反省

#### ア 試書について

あらかじめ各自が鉛筆で「木」「林」を書いておいた。これを本時の導入時にプロジェクタを使って全体に示し、試書につなげた。

なお、毛筆での練習後、硬筆練習時に再度同じ用紙の別枠に「木」「林」を書いた。自信の伸びを発見することができた。



(右側が授業前の字。左側が毛筆練習後の字。練習後の字についての感想を書いている。)



- ・ 試書の前に姿勢についての確認した。(ぐう・ぴた・ぴん) また、筆順に気をつけるために、全員で空書きした。毎時間、継続して行っている。
- ・ 姿勢のポイントを示した掲示物を教室全面に掲示しているので、さまざまな機会に姿勢について触れることができる。

#### イ めあてタイムについて

試書とお手本の字を見比べることにより、自分の書いた字について、課題を見つけやすいと考えた。

気付いたことを記入する際、お手本に書いた児童と試書に書いた児童がいた。お手本に書くと、いつも意識できるが、試書に書くと片付けてしまうためいつも目にはすることはできない。いずれが適しているのか検討が必要である。

気付いたことを書いた上で発表すると、発表が苦手な児童にとっても言いやすく、思いを伝える姿にもつながると考える。また、机間指導の際に、個々の児童の課題が分かり、努力を認めたりアドバイスをしたりするときに役立った。





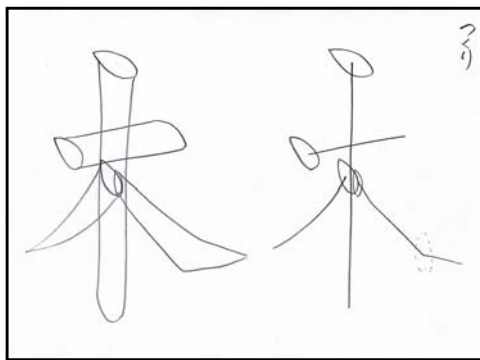
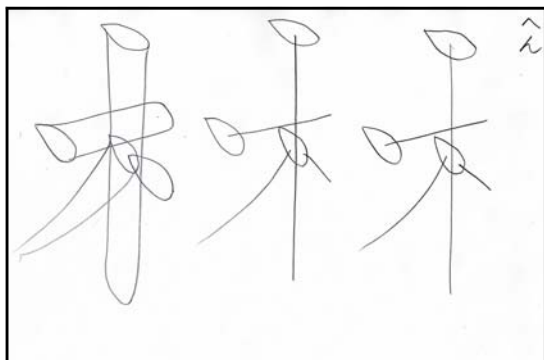
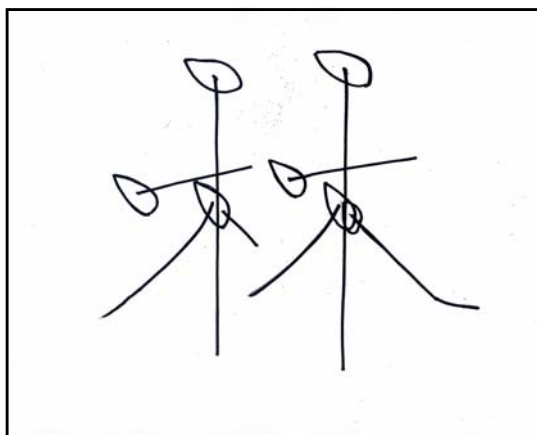
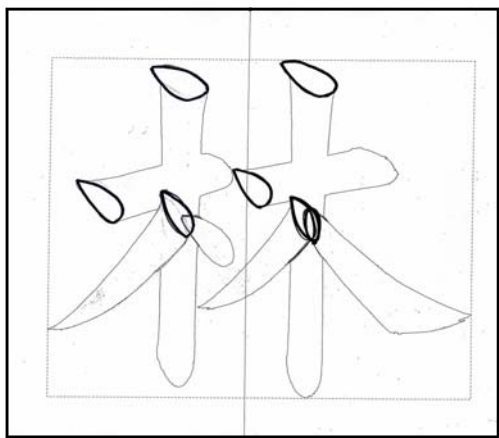
また、気付いたことを発表させることで、共通の課題を示すことができた。特に、「へん」と「つくり」に分けて考えることで、左右の組み立てについて理解することができた。

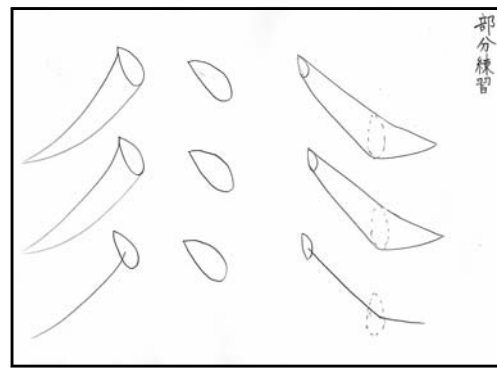
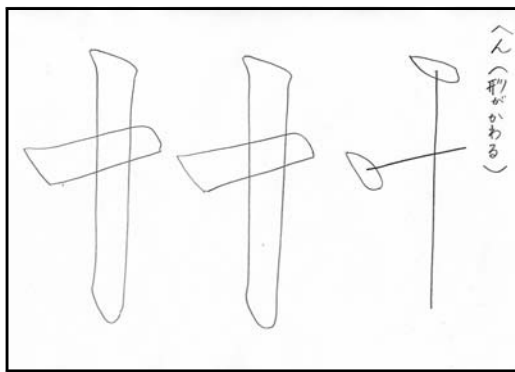
お手本を各自持たせた上で、黒板にも拡大した字を示した。



#### ウ 自分タイムについて

練習用紙を配布し、自分の課題に気をつけながら練習するようにした。練習用紙に直接書くことができるようにしている。半紙に練習するよりも、気をつけることをより意識して練習することができるようである。毛筆が苦手な児童や字を書くことに抵抗感のある児童にとっても、向き合いやすい。また、追加の練習用紙を用意し、適宜、活用できるようにした。





まとめ書きをする前に、「林」の書き方を動画で確認させた。今回は、Web上に公開されていたものを活用した。当初、自分タイムのはじめの方で見せる予定であったが、自分タイムの最後で見せた。児童は集中して見ることができ、まとめ書きに役立った。動画の活用を今後も考えていきたい。



「小学校における教育コンテンツを活用した授業に関する研究」

[http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/contents/h16\\_pro5/index.html](http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/contents/h16_pro5/index.html)

#### エ みんなタイムについて

試書とまとめ書きしたものを色画用紙に貼り付け、2枚を見比べられるようにした。この時間での自分の伸びを確かめやすかった。また、友達の字についても、よくなったところを見つけやすく、それを伝えることも目の前の2枚を元にして言うので苦手な児童にとっても抵抗感が少ないと考える。

自然な形で友達との関わりをもつことができ、今後も活用していきたい。



## (2)協議

### 【めあてタイムについて】

- ・ 「めあて」がいろいろでてきた。その中で「今日はこれ」というのを絞ったほうがよい。3年生では特にそうである。
- ・ 左右の「はらい」がめあてではないので、その練習に没頭してはいけない。この時間は「へんをつくりの組み立て」である。ポイントは第一画目の位置である。
- ・ 「めあて」を第一画目にするなど、「今日の勉強はこれ」というところでないといけない。書く時に意識させるためにも絞るべきである。

### 【自分タイムについて】

- ・ 子ども達は満足できるほど書くことができています。練習用紙の工夫や見通しをもって書いていたためではないか。
- ・ 自分が練習したい内容に合わせて、「～したいときにはこの練習用紙を使う。」というように練習用紙の使い方ができるとよい。
- ・ 「自分タイム」の10分間が充実していたのは、以下の要素があったからではないか。
  - めあてがはっきりしていた。
  - 練習方法が分かっていた。
  - 机間指導で温かく接していた。
  - 「林」は1年生で学習する字で、簡単であった。
- ・ 動画は興味をもって見ることができていた。まとめを書く前に設定したため、これまでの練習の場面から一旦仕切り直しをする効果もあった。最後の一枚を書く前だったので緊張して見ることができていた。
- ・ まとめ書きの前にも姿勢の合い言葉「ぐう・ぴた・ぴん」を確認するのがよい。

### 【みんなタイムについて】

- ・ 「みんなタイム」で人から誉められると、自分では気づかない「よいところ」を見つけることができるのでよかった。
- ・ 「～が自分はよくなりました。」という一文を入れると、試書とまとめを比べた時に、自分の伸びが分かる。
- ・ 「みんなタイム」では「自分はよくなった。」とは言いにくいですが、友達のよくなったところはよく言っていた。友達のがんばりを発表するほうがよく言える。
- ・ 試書とまとめ書きを並列させて画用紙にはり、見比べる方法は、分かりやすくてよい。

### 【その他】

- ・ 1時間の中で「めあてタイム」「自分タイム」「みんなタイム」「まとめ」の4つができています。
- ・ 姿勢を意識させるために「ぐう・ぴた・ぴん」は毎回確認するのがよい。
- ・ 筆の持ち方の指導は、「手の甲が向こう」「ひもが天井を向くように」「腕で書くんだよ」などがある。
- ・ 道具の使い方。特にわくのある下敷きを使用した場合は、きちんと半紙をわくに合わせるようにする。
- ・ 1年間やっているなので、道具の扱い方など上手である。

- ・ 黒板に書く時のポイントなどを言葉として書いておくと、板書を見ただけで確認できてよい。
- ・ 基本の流れとしてはよいのではないか。これを元にしてアレンジしていくとよい。
- ・ 始筆を意識させたい。
- ・ 中心線を大事にする。
- ・ 書写も体育と同様、「場」と「自分のめあて」があることで意欲的に学習できる。
- ・ 「まとめ書きを見せたい。」「楽しかった。」と思える授業であった。

## 7 考察

- ・ 試書とお手本を比べることにより、自分のめあてを明確にすることができる。お手本に気が付いたことを書くことで、めあてを意識し、その後の「自分タイム」での活動に生きてくる。
- ・ 練習用紙の工夫により、意欲をもって練習に取り組むことができた。児童がめあてに沿った練習用紙を選択できるようになると、より主体的な活動になる。
- ・ 「みんなタイム」での話し合い活動は、試書とまとめ書き2つの字を見比べることで、友達のよさを発見しやすく、具体的によさを伝えることが可能である。自分の考えを互いに伝え、上達を認め合える、相互評価の方法として、今後も活用していきたい。



http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/contents/h16\_pro5/index.html

小学校における教育用コンテンツ集 | 岩手県立総合教育センター - Windows Internet Explorer

http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/contents/h16\_pro5/index.html

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) [セキリイ24]

お気に入り 小学校における教育用コンテンツ集 | 岩手県立...

コンテンツ集

- Top
- 書写
- 算数
- 生活
- 理科
- 社会
- 音楽
- 図工
- 体育
- 保健
- 家庭
- 支援
- 支援2

小学校における教育用コンテンツを活用した授業に関する研究  
～各教科の指導内容に即した教材の開発とカリキュラムへの位置付けをとおして～

|        |                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7 まとめ  | まともく水>                                         | <a href="#">&lt;水&gt;</a><br><a href="#">&lt;水&gt;</a>                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 4年     | <input type="checkbox"/> チャレンジ！<br>調べたことをつたえよう | <a href="#">横画</a><br><a href="#">よこ画</a><br><a href="#">たて画</a><br><a href="#">たて画</a><br><a href="#">はね</a><br><a href="#">はね</a><br><a href="#">点</a><br><a href="#">点</a><br><a href="#">おれ</a><br><a href="#">おれ</a><br><a href="#">左はらい</a><br><a href="#">左はらい</a><br><a href="#">右はらい</a><br><a href="#">右はらい</a> |
| 1 はじめに | 毛筆のしせい<br>毛筆で書こう                               | <a href="#">&lt;羊&gt;</a><br><a href="#">&lt;羊&gt;</a><br>旧教科書使用手本<br><a href="#">&lt;友&gt;</a>                                                                                                                                                                                                                           |
| 2 字形   | 画の長さ<羊>                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

ページが表示されました

インターネット | 保護モード: 有効

100%

6:33





<http://iida.cafe.coocan.jp/syosyaDB/frame/top.htm>

書写の学習 書く蔵タン - Windows Internet Explorer

http://iida.cafe.coocan.jp/syosyaDB/frame/top.htm

基本

筆の持ち方 筆跡 通紙の名前と準備の仕方 かな・スラ 書写用語 名前を書く 筆と名かよし

基本の点画

なく画 ふく画 左はらい 右はらい はね おろし 曲がり・そり 点・しんじよう ひらがな

題材

|    |   |   |   |   |   |    |   |   |      |    |
|----|---|---|---|---|---|----|---|---|------|----|
| 二年 | 二 | 十 | 小 | 大 | 月 | ビル | に | は | 白い   | 氷山 |
| 四年 | 光 | 虫 | 里 | 林 | 左 | 力  | ゆ | 元 | 元気   | 生命 |
| 五年 | 歩 | 銀 | 雲 | 草 | 仲 | じ  | 読 | 希 | 希望   | 外国 |
| 六生 | 登 | 道 | 湖 | 夕 | 情 | ぶ  | い | 創 | 希望の春 | 愛  |
|    |   |   |   | 顔 | 熱 | は  | 美 | 造 | 希望の春 | 幸福 |
|    |   |   |   |   |   | さ  | 海 |   |      | 友  |
|    |   |   |   |   |   | や  | し |   |      | 深  |
|    |   |   |   |   |   |    |   |   |      | 情  |

石川県書写書道教育連盟

http://iida.cafe.coocan.jp/syosyaDB/item/4/hayasi/top.htm - Windows Internet Explorer

http://iida.cafe.coocan.jp/syosyaDB/item/4/hayasi/top.htm

文字の組み立てを知ろう

●文字はどのようにして組み立てられているのだろう

左右の組み立て方

木 + 木

↓

林

上下の組み立て方

木 + 林

→

森

組み立て方をたしかめて書いてみよう

林 林 林 林

筆跡 筆跡 筆跡 筆跡

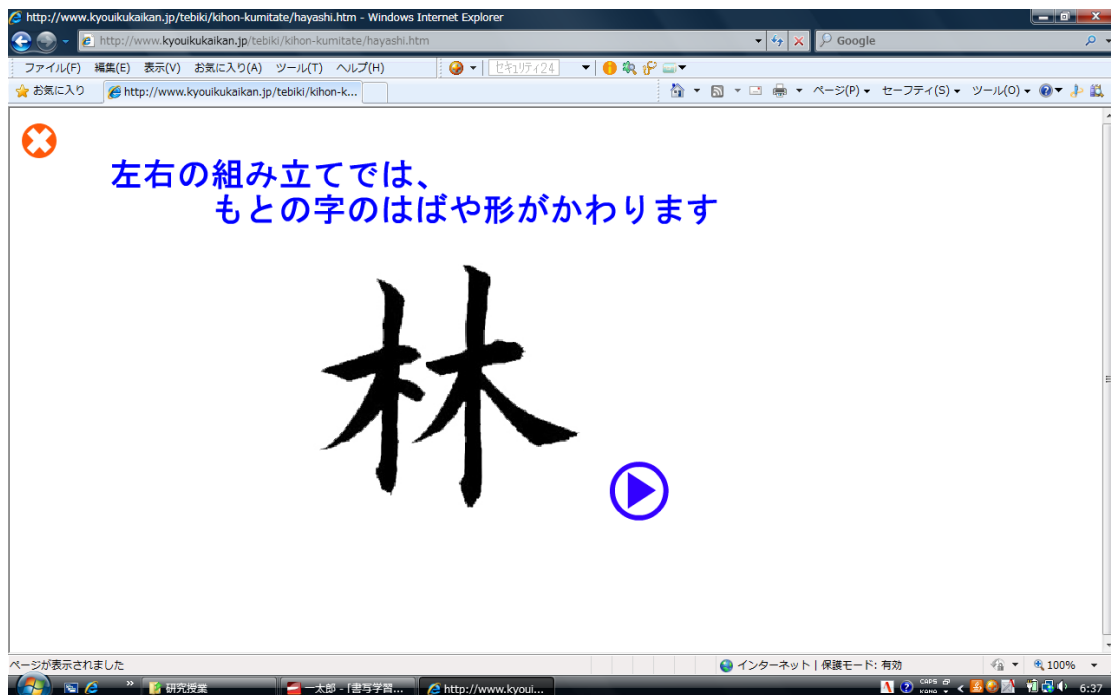
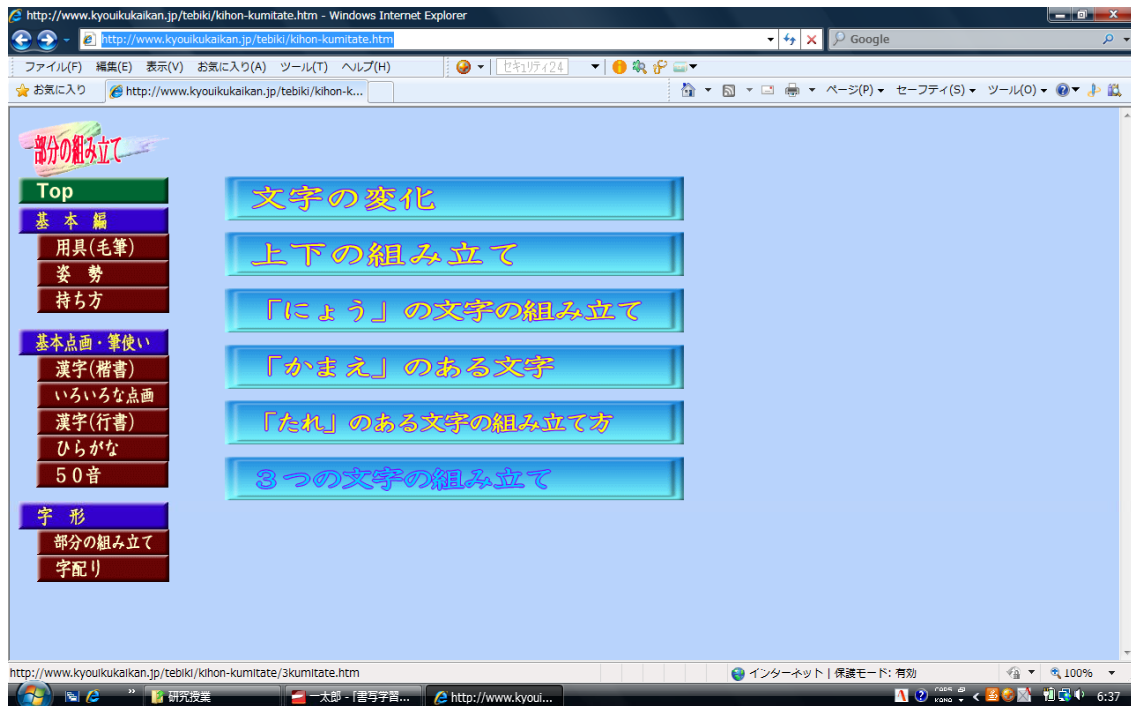
筆跡 筆跡 筆跡 筆跡

筆跡 筆跡 筆跡 筆跡

筆跡 筆跡 筆跡 筆跡



<http://www.kyouikukaikan.jp/tebiki/kihon-kumitate.htm>



1 題 材 ひらがなの結びを練習しよう

2 ねらい ・結びの筆使いを知り、ていねいに書くことができる。

書き初めの課題（4年「生きる力」、3年「みらい」）の中から選んだ。

3 目 標 A児（4年）「る」のポイントに気をつけて、根気強く練習する。

B児（3年）「み」の筆使いを知って、自分で練習する。

| 学 習 活 動                           | 教 師 の 支 援                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 本時のめあてを知る。                      | <p>○今まで練習してきた「始筆」「とめ」「折れ」「払い」を振り返り、本時の「結び」は新しい課題であることを知らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「むすび」の筆使いをれんしゅうしよう。</p> </div>                                                                                                                 |
| 2 練習をする。<br>・試書をする。<br><br>・練習する。 | <p>○罫線だけの紙を用意して試書する。</p> <p>○試書したものと手本を比べながら、難しいポイントをつかみやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆の押さえ加減</li> <li>・結びの形（三角形）</li> </ul> <p>○筆遊びで筆の押さえ加減が練習できるようにする。<br/>太い→細い→太い→細い・・・</p> <p>○籠文字の用紙を準備して練習しやすくする。</p> <p>○うまくできているところを見つけてしっかりほめることで、練習の意欲が継続できるようにする。</p> |
| 3 清書をする。                          | <p>○本時のめあてのポイントを空書をして確認する。</p> <p>○「ゆっくりていねいに」を合言葉にする。</p> <p>○自分が納得できるまで書けるように用紙を準備しておく。</p>                                                                                                                                                                                          |
| 4 友だちの作品のいいところを話す。                | <p>○いいところを見つけられたことをほめる。</p> <p>○話すのが苦手なB児には、○×の札で意思表示を促す。</p>                                                                                                                                                                                                                          |
| 5 まとめをする。                         | <p>○次時は、書き初めの他の文字を練習することを知らせる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                     |